

関東甲信越地区青少年教育施設協議会 第2回職員研修会 群馬大会

国立赤城青少年交流の家を会場として、「関東甲信越地区青少年教育施設協議会第2回職員研修会 群馬大会」が、10月29日(木)～30日(金)、1泊2日日程で開催され、協議会に加盟する44施設から50名の参加者が集まりました。

【研修】

「リソースを活かした活動プログラム」
～赤城山の松枯れと環境教育プログラム～
講師：足利工業大学総合研究センター
客員研究員 岩崎眞理氏

赤城山の松枯れの現状とその原因と考えられる土壌の酸性化についての講義の後、岩崎氏が開発された「岩崎式ドラム缶炭焼き窯」の設置場所へ移動しての研修となりました。

松枯れの林で行われている炭による土壌中和と植樹による森林再生活動中の森の様子を見てから、ドラム缶炭焼き窯での炭の焼き方、焼いた炭を使っの野外調理プログラム等の紹介がありました。



【研修】

「群馬県立ぐんま昆虫の森における集客戦略」
講師：ぐんま昆虫の森
次長 木島照治氏

本物の昆虫に触れ、命の大切さを学ぶために施設が行っている取り組みについて具体例を前にしての説明がありました。施設内見学を兼ね、利用者が自由に使える虫取り網、虫を増やし維持するために育てている無農薬の農作物、簡略化した手続きですぐにできるクラフトコーナーの設置などについての紹介がありました。生態温室(西表島をモデルにした亜熱帯環境の再現)では、年間を通して蝶が舞う様子に「本物に触れる」取り組みを実感しました。

【記念講演】

「青少年の育成と体験活動」
～脳科学からのアプローチ～
講師：早稲田大学教育・総合科学学術院
教授 安彦忠彦氏

「体験」のない「経験」に見る間接経験の落とし穴として「ゲーム脳」の問題点など、具体的な事例紹介による「体験」の意義についての講義から始まりました。「体験」の発達段階での意義の違いでは、それぞれの社会教育施設で働く職員として、関わり方をふりかえる契機となりました。人間性、社会性、知性を育むための活動プログラム内容と研修支援の在り方について多くのヒントを得る機会となりました。

